

## 船舶事故調査報告書

平成28年3月17日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄司邦昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根本美奈

事故種類	衝突（防波堤）
発生日時	平成27年7月19日 23時43分ごろ
発生場所	兵庫県豊岡市津居山港 津居山港東導流堤灯台から真方位260°340m付近 （概位 北緯35°39.0′ 東経134°50.1′）
事故の概要	プレジャーボートはるかぜ号は、西南西進中、防波堤に衝突した。 はるかぜ号は、同乗者1人が死亡し、船長及び同乗者1人が負傷し、船首部に破口等を生じた。
事故調査の経過	平成27年7月21日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート はるかぜ号、5トン未満 251-17373兵庫、個人所有 5.85m (Lr) × 2.19m × 1.07m、FRP ディーゼル機関、51.5kW、平成9年3月
乗組員等に関する情報	船長 男性 72歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成8年11月14日 免許証交付日 平成23年11月13日 （平成28年11月13日まで有効） 同乗者A 男性 71歳
死傷者等	死亡 1人（同乗者A）、重傷 1人（船長）、軽傷 1人（同乗者B）
損傷	本船 船首部に破口等 防波堤 擦過痕
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 低潮期
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、友人2人（以下「同乗者A」及び「同乗者B」という。）を乗せ、津居山港北北西方沖での釣りを終え、豊岡市円山川 <small>まるやま</small> にあるマリーナに向けて帰途についた。 本船は、船長が、操縦区画右舷側の舵輪後方に立ち、手動操舵により、約12～13ノットの対地速力で、円山川河口の東導流堤と西導

	<p>流堤の中央部を針路目標とし、豊岡市津居山島北東にある石金岩<sup>いしがね</sup>を約5～10m離して南南西進した後、変針して西南西進中、平成27年7月19日23時43分ごろ、船首部が西導流堤の南西方から南南東方向に築造された港内防波堤に衝突した。</p> <p>船長は、衝突の衝撃で頭部と腹部が舵輪等に当たり、同乗者Aは、前方に飛ばされて胸部などが操縦席左舷側の構造物に当たり、共に転倒した。</p> <p>同乗者Bは、船長及び同乗者Aが呼び掛けに反応しなかったため、すぐ119番通報を行い、意識が戻らない同乗者Aに対し、電話で消防署員の指示を聞きながら心肺蘇生を行った。</p> <p>船長及び同乗者Aは救急車で病院へ搬送され、同乗者Aは、胸部打撲に伴う心破裂、多発肋骨骨折による胸郭動揺により死亡が確認され、船長は、左外傷性血気胸、肺挫傷、左多発性肋骨骨折及び脳震盪等と診断されて入院して治療を受け、同乗者Bは、右手を打撲した。</p> <p>本船は、マリナー職員によりマリナーに運ばれた。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図、写真1 損傷状況(船首部) 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>船長は、本事故海域の夜間航行経験が豊富であり、約8年前から同乗者A及び同乗者Bと月1回程度釣りに出掛けていた。</p> <p>同乗者Aは、中央部に置いたクーラーボックスに船首方を向き、うつむいた状態で寝ていた。</p> <p>同乗者Bは、同乗者Aの左舷側のクーラーボックスに座っていた。</p> <p>船長は、夜間、GPSプロッター上に釣り場からマリナーまでの航跡を表示させ、導流堤近くまで航跡をたどりながら航行しており、本事故当時、1分間に1回程度船位を確認しながら航行していた。</p> <p>船長は、出航前、アンカーの取付け作業を行い休息はとれていなかったものの、疲労や眠気は感じておらず、本事故時まで急に意識を失ったことなどはなかった。</p> <p>船長は、石金岩を通過し、東導流堤と西導流堤付近まで航行したことは覚えていたものの、西南西へ変針した記憶がなく、気が付いた時は病院にいた。</p> <p>船長は、港内防波堤を避けることなく衝突したこと、及び円山川河口付近まで航行して安心した気持ちがあったので、航行中に居眠りをした可能性があると思った。</p> <p>船長は、港内防波堤の先端付近に100Wの水銀灯が設置されており、港内防波堤には釣り人がよくいるので、帰航時、いつも港内防波堤から離すようにしていた。</p> <p>同乗者Bは、座っていた位置からは船首方が見えず、衝突するまで本件防波堤に接近していることには気付いておらず、左手で左舷中央部のブルワークを持っており、衝突の衝撃で転倒することはなかった。</p>

	<p>た。</p> <p>乗船者全員は、出航時救命胴衣を着用していたが、釣り場に到着した後、海上が平穏だったので、船長及び同乗者Aは救命胴衣を着用していなかった。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、津居山港北北西方の釣り場から円山川のマリーナに向けて手動操舵で帰航中、船長が居眠りに陥ったことから、港内防波堤に衝突したものと考えられる。</p> <p>船長は、本事故直前の記憶がなく、衝突に至る状況を明らかにすることができなかった。</p> <p>船長は、出航前に休息がとれなかったこと、及び円山川河口付近まで航行して気が緩んだことから、居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p> <p>同乗者Aの死因は、胸部打撲に伴う心破裂、多発肋骨骨折による胸郭動揺であった。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、夜間、本船が津居山港北北西方の釣り場から円山川のマリーナに向けて手動操舵で帰航中、船長が居眠りに陥ったため、港内防波堤に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 操船者は、目的地まで残り僅かな距離に達していても、到着するまで気を緩めることなく操船を続けること。</li> </ul>

付図1 事故発生経過概略図

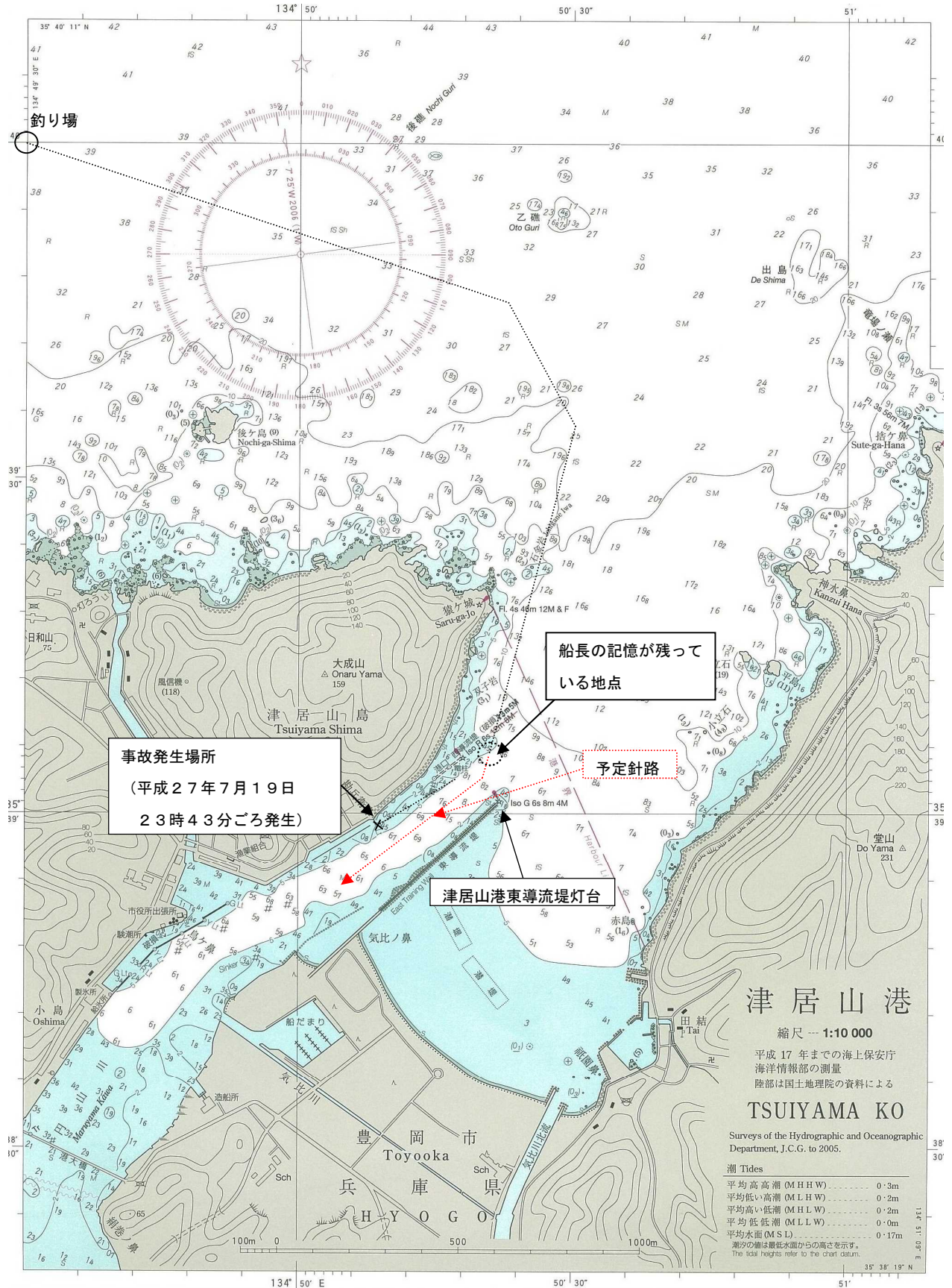


写真1 損傷状況（船首部）

